

同宗連結20周年記念大会□1  
 阿弥陀さまと私□2  
 新・祖蹟点描□3  
 青色青光□4  
 寺族青年連盟が研修会□6  
 2組で連研修了式□8  
 僧侶・寺族研修会□9  
 韻流十方□10  
 つれもて聴こら□12



2019年(平成31年)  
**4月1日**  
 第120号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

記念公演で伽耶琴を演奏する和歌山朝鮮初中級学校の皆さん



## 和歌山県同宗連

和歌山県内16の宗教教団でつくる「同和問題にとりくむ和歌山県宗教団連絡協議会」(和歌山県同宗連)の結成20周年記念大会が2月6日、鷺森別院本堂で開かれ、各宗教団体の宗教者や信徒ら160人が参加した。

和歌山県同宗連は199

7年(平成9)6月6日、教えの根源に立ち返り、基本的人権に關わる問題を考

え、部落差別を初めとする問題として結成された。

結成大会の「宣言文」には、「社会の矛盾にあえぐ人々の叫びに深く心をいた

## 差別ない社会へ努力誓う

し、根源的罪深さへの悲しみがわれらのものとなつたとき、はじめて救いがもたらされ、真の宗教ははじ

# 結成20周年祝い記念大会

罪、一切の差別に対し、勇気をもって立ち向かうことを決意し、真の宗教者たちんことをここに宣言する」と、その活動理念が力強くうたわれている。

開会式では、この宣言文

を参加者全員で斎唱し、結成当初の願いを再確認した。

あいさつに立った赤松明

秀議長(西山淨土宗)は、

「平成28年12月には部落差

別解消推進法が施行されま

したが、私たちもさらに運動を強化し、差別のない社

会実現のために努めてまい

る所存です。皆さまのご協

力をお願いいいたします」と、

呼び掛けた。

続いて、講談師で大阪芸術大学客員教授の旭堂南陵

さんが記念講演。「人の心に潜む差別」と題し、大相撲を例に取るなど穢れと差

別の問題について話し、後半は講談で会場を沸かせた。

和歌山朝鮮初中級学校

(和歌山市中島)の生徒ら

による記念公演では、伽耶琴など朝鮮半島の伝統楽器の演奏を聴いた。



旭堂南陵さんが差別をテーマに講演



赤松明秀議長

# 阿弥陀さま

ハウツー仏事と私

## ㉒ 臨終勤行

今号からは、人生最後の大重要な儀式である葬儀に関する一連の法要を取り上げます。

お勤めが「臨終勤行」です。臨終勤行といえくなられて最初の

お勤めが「臨終勤行」です。臨終勤行といえなくなられてからのご依頼だからです。

さんの旦那さんが亡くなるわずか45分前だったあとでお聞きしました。

お勤めさせていただくのが一般的です。その際は、同

お勤めの次第は、「葬儀規範勤式集」によれば、仏説阿弥陀経・念佛・和讃二種・回向で、読經後、弔問の法話または御文章（末代無智章、信心獲得章）の拌讀とされています。

それは2000年（平成12）5月31日のこと。当時勤務していた本願寺名古屋別院に一本の電話が入りました。電話の声の女性は「お勤めをしてください。主人がもうじき死にそうなんです」と言われたのです。

電話を受けた私は驚きました。筆者には忘れられていません。



仏華は檻のみ、打敷は白（お飾りの一例）

別院ご門徒のTさんは、曰那さんの脈がだんだん弱くなってくるのを感じ、直感的に電話されたそうです。

淨土真宗における臨終勤行とは、日ごろからお育てお導きを頂いた阿弥陀さまにお礼申し上げる意味で、お本尊に向かい生前最後のお勤めをすることです。

ですから、本来はこれら死を迎える方が自身がお勤めされるのが本当ですが、実際にはなかなか難

席されているご家族や親せき、弔問の方なども一緒にお参りください。

病院で亡くなられた場合、最近はご遺体が直接葬儀会館に運ばれることも多いようです。しかし、できるだけいったん自宅に戻り、ご遺体を仏間に安置し、お仏壇の前で臨終勤行をお勤めするようにしたいものです。

お勤めは俗に枕経（まくきよ）とも呼ばれます。が、ご遺体に対するようにして読經するのであります。

元に三具足を置いたり、茶碗にご飯を盛って箸を刺した「一膳飯」などを供えている場合がありますが、このようなことはいたしません。これ以外にも誤った習俗や迷信がいろいろとありますので、その都度所属のお寺にご相談ください。

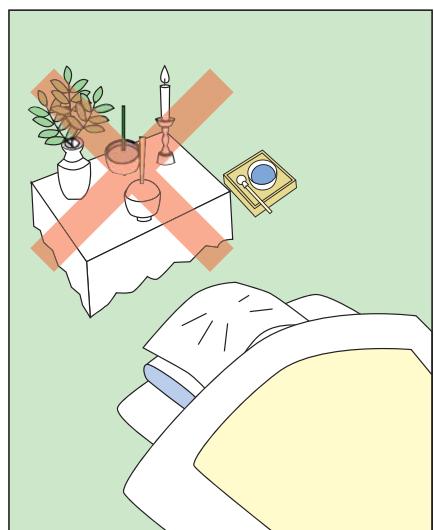
（松本教智・一樹園明の社会委員長）

枕元に仏具や一膳飯などは置きません

す」と、職員が愛知県国际病院のホスピス病棟に駆け付けて臨終勤行をし終えたのは、電話の主、T

しいことですので、息を引き取られたあと、遅ればせぬうちに亡き方に代わってかって行います。

お仏壇のお莊嚴は、仏華は檻やビシャコなどの青木のみ、ろうそくは白を用い、打敷は白か無地の物を掛けます。お仏壇がない場合でも、適宜ご本尊を安置し、その手前に三具足（ろうそく立・香炉・花瓶）を置いてお勤めいたします。



鷺森テレホン法話  
おにしさん  
**073-422-0243**

こころの電話（海南組西光寺）  
TEL(073) 487-2430  
ヤングこころの電話（同上）  
TEL(073) 487-0404  
こころの電話（御坊組専福寺）  
TEL(0738) 44-0874

(大原談義)である。顯真は、その3年前  
183年(寿永2)<sup>11</sup>、日、師であり天台座主<sup>12</sup>た明雲が「法住寺合戰<sup>13</sup>」  
巻き込まれ急逝する。

吉水の草庵（禅房）を開いておよそ9年後の1186年（文治2）秋のこと、法然聖人（法然房源空聖人、1133～1212）は比叡山の僧・顯真（1130～1192）から大原の勝林院に招かれ、顯真らの問題に答える形で専修念佛の教えを説かれた。大原問答

# 新 祖蹟点描

22 勝林院

いた。源義仲が対立する後白河院の御所となっていた法住寺を襲撃した際、居合わせた明雲が流れ矢に当たったのである。しかも明雲の首は西洞院川に捨てられた（『愚管抄』卷五）。

この事件によつて、出離しじうじの生死の道（苦悩に満ちたこの世を離れ、さとりの世界へと至る道）を求める思いを強くした顯真は、思いを同じくする友人の僧と語り合うなかで、法然聖人の存

やがて比叡山麓の坂本で  
法然聖人と対面する機会を得た顯真是、「このたび、いかゞして生死を離れ侍るべきや」と問うた。これに對し法然聖人は、「成仏はかたしいへども、往生は得やすし。道尊・善導の心によれば、仏の願力を強縁として、亂想の凡夫（煩惱にとらわれた者）往生す」と返答されたという（『法然上人行状絵図』卷十四）

このとき顕真は、法然聖人は知恵は深いが偏ったところがあるとの印象を持つた。それを伝え聞いた法然聖人は、自分の知らないことをにはだれもが疑心を起こすものだと言われたといふ。顕真是これを知り、浄土の教えを貞剣に学ぼうと決意大原に百日籠もり独学に専念、改めて教えを講ねようと法然聖人を招いたのである。問答の場には、比叡山の碩学、東大寺の再建に従事

道理がある。教えとそれを受ける側が相応すれば、さとりを得るのにそれほど歳月は要さない。だが私のような頑愚の類いはその器ではない。私自身、自分の力でさとりを得ようと聖道門の教えを学んだが、かなわなかつた。これは世が末法で人も愚かで、教えと私たちが相背くからである。

しかし善導大師の説かれ  
る淨土三部經の肝要によれば、阿弥陀仏の願力という

功德を「理を究め、詞を尽くし」て語られたといふ。一同は信伏し、顯真は喜びのあまり勝林院の本尊である丈六（高さ一丈六尺約4.6m<sup>85</sup>）の阿弥陀仏の周りを行道しながら声高らかにお念佛を称え、人々もこれについて行道すること三日三晩に及び、念佛する声は林野に響き渡つたといふ。

勝林院は1013年（長和2）に寂源（生年不詳）が創建。慈覚大<sup>さんこうだい</sup>

法然聖人、大原で諸僧と談論

吉水の草庵（禅房）を開いておよそ9年後の1186年（文治2）秋のこと、法然聖人（法然房源空聖人、1133～1212）は比叡山の僧・顯真（1130～1192）から大原の勝



安置する本堂右

これらの教えには深い

する重源と弟子30人、大原の聖なども参会し、談論往復すること一昼夜にわたつたといふ。

一々の問答については残念ながら確たる史料がない。「行状絵図」によつておおまかな内容を追うと、法然聖人は、仏教諸宗のさとりへと向かう方法や修行のありようをつぶさに述べた上で、

（浄土）に生まれることが  
できる。これは浄土門のみ  
念佛行ただ一つである—  
法然聖人はさらに、法藏  
菩薩が願を建てられたいわ  
れど、現に阿弥陀仏となら  
れ私たちをお救いくださる

（安永7）の再建。  
〔参考文献〕平雅行『法然貧しく劣つた人びとと共に生きた僧』（山川出版社）（本紙編集部）

(淨土)に生まれることができる。これは淨土門のみができる。これは淨土門のみで、法然聖人はさらに、法藏菩薩が願を建てられたいわ  
れど、現に阿弥陀仏とならぬ私たちをお救いくださる

（参考文献）平雅行『法然貧しく劣つた人びとと共に生きた僧』（山川出版社）（本紙編集部）

道理がある。教えとそれを受ける側が相応すれば、さとりを得るのにそれほど歳月は要さない。だが私のような頑愚の類いはその器ではない。私自身、自分の力でさとりを得ようと聖道門の教えを学んだが、かなわなかつた。これは世が未法で人も愚かで、教えと私たちが相背くからである。

しかし善導大師の説かれ  
る淨土三部經の肝要によれば、阿弥陀仏の願力という「強縁」のゆえに、だれもが智慧のあるなし、持戒破戒に関係なくさとりの國（淨土）に生まれることができる。これは淨土門のみ、念佛行ただ一つである――。

法然聖人はさらに、法藏菩薩が願を建てられたいわ  
れど、現に阿弥陀仏となら  
れ私たちをお救いくださる

【参考文献】平雅行『法然 貧しく劣つた人びとと共に生きた僧』（山川出版社）（本紙編集部）

勝林院は1013年（長和2）に寂源（生年不詳）1024）が創建。慈覺大師円仁が唐から持ち帰った法要儀式や声明（法要で経文などに節回しを付けて唱読する仏教声楽）を伝えるお寺。現本堂は1778年（安永7）の再建。

功徳を「理を究め、詞を尽くし」て語られたといふ。一同は信伏し、顯真は喜びのあまり勝林院の本尊である丈六（高さ一丈六尺＝約4.5m）の阿弥陀仏の周りを行道しながら声高らかにお念佛を称え、人々もこれについて行道すること三日三晩に及び、念佛する声は林野に響き渡つたという。

# 青色青光

講義で門徒としての基礎知識学ぶ



和歌山教区  
婦連

## お寺の素朴な疑問語り合う

### 鷺森別院で第3回「若い女性の集い」

教区仏教婦人会連盟は2月9日、鷺森別院で3回目となる「若い女性の集い」を開催した。佛教婦人会活動推進者のなかで少しでも仏教の味わいを深めていただきたい

育成を目的として、今までお寺に関わることがなかつた女性に、日常生活の営みのなかで少しでも仏教の味わいを深めていただきたい



2班に分かれ討議と発表

## 浄土真宗の教え身近に

と、年に1度開催される。今年は10人が参加。午前11時からの開会式のあと、「お参りのイロハ」と題して、焼香の作法やお念珠・門徒式章・経本の取り扱いなどを学んだ。

ランチ＆ティータイムを挟み、「お寺に関する素朴な疑問? ETC:」と題して仲尾信博教務所長が講義と問題提起を行った。その後、2班に分かれてのグループ討議では、仲尾教務所長が提起した「子どもの時にうれしかったこと、悲しかったこと」「最近うれ



連研受講の感想語り合う

## 新たな門徒推進員誕生に向け

組連研修了者を対象に研修会開く

和歌山教区では2月2日、鷺森別院で連研履修者研修会を開催した。

この研修会は、門徒推進員養成連続研修会（連研）修了者としての自覚を促し、



海南組で第1号の門徒推進員・立花美一さん

海南組から修了者6人が参加した。

研修は、連研中央講師の加藤真悟さん（大阪）が「連研を通して学んだこと、感じたことをきかせてください」というテーマで進行。話し合い法座では、「連研を受けて、人との出会いがありあった」「話し合いで多くの意見を聞き、いろいろ

しかつたこと、悲しかつたこと」の2点について、参加者が思い思いに語った。

最後に仲尾所長は「お寺は同じ宗教のもと、誰もが気兼ねなく語りえる場所です。しかし私たち語り

さまは、お淨土という仏さまの世界を用意してくださいます。でもその先に阿弥陀さまは、お淨土という仏さまの世界を用意してくださいます。お淨土は、さっています。お淨土は、だれもがお互いを認め許し

尽くせず、また、分かり合える世界です。親鸞聖人はそんな浄土真宗の教えを顕らかにしてくださったのです」と、まとめ。

参加者にとって仏教が身近に感じられるような研修会となつた。

「仏さまの教えを聞くことで、人の痛みを私の痛み、人の喜びを私の喜びとさせていただくことはできないかも知れないが、それができる道を、至らないもの同士が共に語りあい、私の生き方を問うていくことが大切です」と語った。

最後に、昨年12月に海南組第1号の門徒推進員になつた立花美一さん（同組淨国寺）が、ご本山での第264回門徒推進員中央教修（3泊4日）の体験談を発表し、連研修了者に対して中央教修受講を勧めた。

## 青色 青光

### 岐阜旅行で団結力アップ

#### 教区仏教壮年会連盟は40周年大会を機縁に

教区仏教壮年会連盟は1月27日から28日の一泊二日に行なった。2018年6月27日に開催した「結成40周年記念大会」に、運営で携わった会員相互の一層の親睦を深めることを目的とした。



本願寺岐阜別院本堂で集合写真

本願寺岐阜別院（岐阜市西野町3丁目1）の参拝をはじめ、高山市内の朝市や飛騨高山酒蔵巡り、郡上八幡博覧館では、国が指定する重要無形民俗文化財である「本三天民踊（阿波おどり、会津磐梯山おどり、郡上おどり）」のひとつ「郡上おどり」の鑑賞など岐阜の風情を満喫。会員らは交流を深め、今後の事業推進に向けて団結力を高める研修旅行となつた。

### 他寺院の歴史や活動に学ぶ

和歌山西組で組活動推進事業報告会  
教区門徒総代会は2月15日、和歌山西組が担当して、同組正善寺（和歌市松江東）で「組活動推進事業報告会」を開催。他組の取り組みに学ぼうと教区内の門徒総代ら57人が集まつた。報告会では、和歌山西組を代表して2人が発表。本



参加者で満堂となった本堂（正善寺）

#### 安楽寺沿革、現在の活動状況を分析し、課題と取り組みを発表した。

総括で、仲尾信博教務所長は「門徒総代として自分の所属する寺院の沿革を知り、寺院内の活動にとどまらず、地域性に応じ、社会性を考慮した活動を展開することも大切」とまとめた。この報告会は教区内14組が毎年1回持ち回りで実施している。

2月20日、教区内寺院の門徒総代40人が、年に一度の鷺森別院境内の剪定奉仕を行なった（写真）。



注意しながら、別院の庭園をはじめ、境内各所にある桜や松などの樹木の手入れにいそしんだ。

奉仕活動後は、鷺森別院婦人会の会員らが用意した味噌汁で、雨の中の作業で冷えた身体を温めた。

教区内の門徒総代ら40人が剪定奉仕を行なった（写真）。

教区内の門徒総代は1月20日、教区内寺院の門徒総代40人が、年に一度の鷺森別院境内の剪定奉仕を行なった（写真）。

教区内の門徒総代ら40人が剪定奉仕を行なった（写真）。

教区内の門徒総代は1月20日、教区内寺院の門徒総代40人が、年に一度の鷺森別院境内の剪定奉仕を行なった（写真）。

教区内の門徒総代は1月20日、教区内寺院の門徒総代40人が、年に一度の鷺森別院境内の剪定奉仕を行なった（写真）。  
和歌山教区では2月16・17日の両日、「得度習礼講習会」を鷺森別院で開いた。本山や各教区での講習会の受講が義務づけられて以降、2014年度から教区では毎年1回開催している。今年は教区内外から6人が受講。教区内特別法務員の指導による衣体の被着法、本堂内陣の莊嚴説明、お勤めや御文章拜読の練習などが行われ、受講者は得度に向け気を引き締め、僧侶としての基本を学んだ。

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

和歌山教区寺族青年連盟が主催して研修会  
一人ひとりの悩みに寄り添う

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

和歌山教区寺族青年連盟が主催して研修会  
一人ひとりの悩みに寄り添う

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

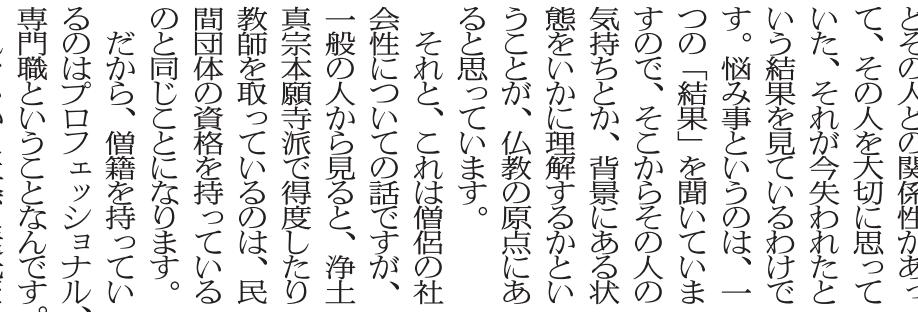
和歌山教区寺族青年連盟が主催して研修会  
一人ひとりの悩みに寄り添う

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

和歌山教区寺族青年連盟が主催して研修会  
一人ひとりの悩みに寄り添う

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

## 解決目指すより関わる姿勢が大切



辻本 今日は吾勝先生をお迎えして、「聞き方」について、これに仏教を絡めた話などをさせていただけたらと思います。

吾勝 普段は龍谷大学の臨床心理学科で4回生と大学院の生徒を受け持ち、ビハーラ関連とビハーラ・カウンセリングというテーマの授業を担当しています。

カウンセリングに関心を持ったのは、大学3回生のときです。個人的な悩み事がありまして、なかなか自

分のなかでは解決付かず整理もできず、どうしたものかと思っていたとき、龍谷大学で一般の人を対象にした「仏教カウンセリング」の講座を17年ぐらい続けています。毎年30人定員で行っていますが、特に最近増えてきたのが定年退職した男性の方です。何で受講されたのかと聞くと、「自分の人生を考えたい」という気持ちがあります。この「結果」を聞いていました。ある程度の年齢になると、それが今失われたところを想起するのですね。

辻本 仕事に打ち込んで、お金稼いでという役割を持つていたのが、仕事がなくなつた途端、何をしていいか分からぬという方はおられますね。

吾勝 そういう二一ツを聞いたという場合もあります。男性の場合、お父さんの亡くなりられた年齢が気になるつまり、あと何10年かという時間を見切ったなかで、残りの人生をどう生きていくべきなのかということを考えるんですね。

辻本 仕事に打ち込んで、お金稼いでという役割を持つた人にどう関わっていきたいというニーズをおられますね。

吾勝 本当にそうですね。力とか、レジリエンス（回復力、立ち直る力）とか言われますが、辻本 本当にそうですね。まず相談に来られてる時点でも、その人自身がどうにかしたいという気持ちはあるんです。だから、その気持ちを、こちらは対応で折らずに、今は八方ふさがりの状況だとしても、その中で一点点崩せるような部分を話を聞いて、聞いてる時間が治療効果を持っているのかなと思いません。そのプロセス、関わり方の話ですよね。

辻本 話をするなかで、相談者も人に伝えようとすると言葉が整理がされる。

## 対談 吾勝常行師×辻本真一朗師



吾勝常行師

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

## わか僧ぞと学ぶ！聞き方レッスン

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

## 苦の現状から背景を理解 日常の道しるべになれば

辻本

吾勝

日常の道しるべになれば

和歌山教区寺族青年連盟（小川眞史委員長）が主催する研修会「わか僧と学ぶ！聞き方レッスン」が3月2日、鷺森別院書院で開かれ、同連盟会員ら20人が参加した。【わか僧】とは、和歌山（わかやま）の若手（わかつ）僧侶を「若造」に掛けたネーミング。前半は、龍谷大学文学部臨床心理学科教授の吾勝常行師（加茂組眞教寺住職）と同連盟会員で臨床心理士としてスクールカウンセラーを務める辻本真一朗師（和歌山組西念寺住職）が「聞く」ことを巡り対談。後半は、聞くことの難しさを体験するためのロールプレイ。参加者は、3人ひと組で順番にクライエント（話し手）、観察者、カウンセラー（聞き手）役になりながら、お互いに感想を聞きました。

## 2組で連研修了式

### 12回の研修で門徒の自覚深める

3月3日、和歌山市狐島の覚円寺において、和歌山西組第17期連続研修会の第12回と修了式が行われた。

研修会には19人が参加し、「門徒としてどのような生活を送ればよいか」をテーマに、自由な話し合いが行われた。



修了証を手に覚円寺本堂で記念撮影（和歌山西組）

まじめの法話で、組長の加藤典彦師（万福寺住職）はご親教『念佛者の生き

方』の肝要を4方条にまとめて「私たちのちかい」を引用。仏さまの真似事だと言われようとも、和顔愛語と少欲知足を胸に、他者を大切にしながら感謝の日々でした。

受講者の一人で2年間話し合い法座の司会を務めた川口勇さん（松専寺）は、「参加者が協力的で有り難かった。連研が現代の問題に対応しつつ長く継続するものになれば」と話した。

を送つてほしい、と述べた。加藤組長は修了式で、修了証を一人ずつ手渡し、この連研が所属寺院をはじめ組や教区の行事などへも足を向けるきっかけになれば、

## 海草組が念佛奉仕団

### 実如上人の祥月法要参拝も

海草組では3月4日から一泊二日の行程で、僧侶・門徒ら40人が西本願寺念佛奉仕団に参加した。

3月5日は第9代実如上人（1458～1535）

の御祥月命日のため、平素

午前10時からは御影堂で、

の奉仕日程と異なり、奉仕活動は初日のみだったが、

参加者は御影堂の畳拭きや向拝の拭き掃除に励んだ。翌日のお晨朝は、漢音小経・礼讚後夜偈をお勤め。



玉置組長から修了証を受け取る受講者（和歌山組）

和歌山組でも3月9日、第7期連続研修会の第12回

修了式では、玉置證組長（養尊寺住職）から31人に修了証が授与された。

約40分にわたり話した。

約40分にわたり話した。

約40分にわたり話した。

約40分にわたり話した。

約40分にわたり話した。



前門さまご出座のもとお勤めされた実如上人御祥月法要に参拝した。

僧侶・寺族会  
研修

# 「和顔愛語」「少欲知足」の出典学ぶ ご親教『念佛者の生き方』をより深く



講師の満井秀城さん

和歌山教区僧侶・寺族研修会が3月12日に鷺森別院、翌13日には日高別院（御坊市）で開催され、鷺森別院は48人、日高別院は22人の僧侶・寺族が参加した。両日とも、ご講師に浄土門の総合基本計画・重写プロジェクトについて学んだ。

満井師は、ご親教の「和顔愛語」「少欲知足」という言葉が、仏説無量寿經（大經）の引用であることを見され、この二つの言葉を中心には話をされた。

お話によれば、「和顔愛語」（やわらかな笑顔とやさしい言葉）は、大經において法藏菩薩のご修行として説かれているが、それを私たち凡夫の側で行おうと

するとき、同じようにはできず、それどころか腹が立てば人を傷つける言葉を吐き、また優しい言葉を用いているようでも、実は打算に基づいた二枚舌や口先だけの言葉でしかないことが多い、と述べられた。

しかし、嫌なことをされれば拳が上がり、不愉快なものは毛嫌いし払いのけようとするとするこの私が、阿弥陀如来の前では手が合わさり、愚痴ばかりで人の悪口を言うのが楽しいこの口から、南無阿弥陀仏の念佛が出て、何の打算もなく実践行として考えるべきである旨をお話しになった。

自力の修行として考えれば、親鸞聖人が「一念多念証文」に、「無明煩惱われらが身にみちみちて、欲もおほく、いかり、はらだら、そねみ、ねたむこところおほくひまなくして、臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」（註釈版聖典693ページ）と記されたように、私たちが念佛申すとき、身となつても欲が消えることはない。

そして満井師は、大鷺森別院ホール（3月12日）

所長の満井秀城師をお招きし、「大經の御文に学ぶ」というテーマで、専如門主が2016年（平成28）10月1日に発布されたご親教「念佛者の生き方」と、宗念仏者のお育てによるものだと話された。

お話を聞く人に優しく困っている人に優しい声を掛けられることもある。それはひとえにみ教の教育によるものだと話された。

しかしそれをお念佛と同じ思いがあつた。

確かに私自身、さまざま社会奉仕活動を素晴らしいと思う一方で、これは往生のためにはならない自力の行為なのではないか、という思いがあった。

しかしそれをお念佛と同様の報謝行としてさせていただけたのだと聽かせていただき、日からうるこが落ちる思いがした。

経に説かれる第三十三願「触光柔軟」の願文を引用され、阿弥陀如來の清淨・歡喜・智慧の光によって、

ア活動や募金などの社会奉仕活動が、自力に当たるのではないかといふ理由から、あまり熱心に行われていない



日高別院御坊会館（3月13日）

しかし一方で、念佛者は欲の拡大には向かわぬ、有り難い、もつたいないという感謝の心を恵まれ、慎む身へと変えられていくと続けられた。

最後に、ボランティア活動や募金などの社会奉仕活動が、自力に当たるのではないかといふ理由から、あまり熱心に行われていない

# 郷音流十方

コウ ル ジッ ポウ

## 4～6月の催し

### 本山

4月5日 布教団連続法座 (鷺森別院)	和歌山教区
5月15日 門徒総代会つどい (鷺森別院)	
5月15日 仏教婦人会つどい (鷺森別院)	
5月28日 仏教婦人会コー い (鷺森別院)	

### 教区内各組

5月16日 仏教婦人会連盟 つどい (鷺森別院)	ラス (念誓寺)	6月末定 仏教壯年会連盟	伊那組
5月23日 実践運動常任委員会 (鷺森別院)	5月未定 組内会 (鷺森別院)	5月未定 小委員会 (かつらぎ町・極楽寺)	
5月29日 ビハーラ和歌山 (鷺森別院)	6月4日 仏教婦人会連盟 組内会 (鷺森別院)	6月4日 第1回組内会 (慶円寺)	和歌山北組
6月13日 布教団連続法座 (鷺森別院)	6月未定 門徒總代会・仏教壯年会連盟合同總会 (鷺森別院)	6月未定 門徒總代会・仏教壯年会連盟合同總会 (鷺森別院)	
6月13日 布教団連続法座 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
6月16日 仏教壯年会連盟 理事会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月上旬 寺族女性会總会 (淨源寺)	有賀組
4月19日 門徒總代会委員会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月中旬 門徒總代会總会 (慶円寺)	
4月22日 寺族女性会第1回委員会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
4月23日 ピハーラ和歌山 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
4月23日 研修会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
4月24日 社会問題担当部 会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
4月25日 少年連盟総会・ ナの会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
4月25日 研修会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
5月10日 勤式講習会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
5月13日 仏教壮年会連盟 つどい (鷺森別院)	6月2日 組合 (建徳寺)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
5月14日 寺族女性会つどい い (鷺森別院)	6月2日 組合 (建徳寺)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
5月14日 仏教婦人会コー い (鷺森別院)	6月2日 組合 (建徳寺)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
5月未定 仏教婦人会だー ナの会 (鷺森別院)	6月2日 組合 (建徳寺)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
5月28日 仏教婦人会コー い (鷺森別院)	6月2日 組合 (建徳寺)	6月未定 實踐運動協議会 (鷺森別院)	
6月8日 組内会 (報德寺)	6月8日 組内会 (報德寺)	6月未定 仏教壯年会連盟 研修会 (未定)	伊那組
6月14日 門徒總代会委員会 (報德寺)	6月14日 門徒總代会委員会 (報德寺)	6月未定 仏教壯年会連盟 研修会 (未定)	
6月未定 門徒總代会委員会 (報德寺)	6月未定 門徒總代会委員会 (報德寺)	6月未定 仏教壯年会連盟 研修会 (未定)	
6月未定 門徒總代会委員会 (報德寺)	6月未定 門徒總代会委員会 (報德寺)	6月未定 仏教壯年会連盟 研修会 (未定)	
6月未定 門徒總代会委員会 (報德寺)	6月未定 門徒總代会委員会 (報德寺)	6月未定 仏教壯年会連盟 研修会 (未定)	

岡崎支坊でチャリティコンサート開催

## 2019 SAKURA CHARITY CONCERT

- ◆日時 4月7日(日)  
13:00会場 13:30開演
- ◆会場 本願寺鷺森別院岡崎支坊
- ◆料金 1,500円(中学生以下無料)
- ◆出演 朗読=言の葉  
ギターデュオ=まるとぼう  
スチールパン&クラリネット  
=朋と仲間達 他  
NPO法人F・プロジェクト
- ◆主催 (090)1021-7068 担当:岡本
- ◆問い合わせ

経費を除く収益金のすべては、NPO法人ジャパンプラネットフォーム宛に寄付されます。

# 鷺森別院 春の恒例法要

みなさまぜひご参拝ください

各団体参拝奨励日

5月13日	仏教壮大年会連盟(午後1時30分から)
5月14日	寺族女性会(午前11時から)
5月15日	門徒総代会(午前10時30分から)
5月16日	仏教婦人会連盟(午前10時30分から)

鷺森別院では5月13～16日の4日間、二尊像(宗祖親鸞聖人、中興の祖蓮如上人の連座の御影)が奉懸して、恒例の二尊会を勤修いたします。毎座、午後1時30分からお勤め、2時ごろから3時30分まで法話を聴聞します。講師は13日～14日が近藤龍樹師(兵庫県加古郡・普光寺)、15日～16日が竹内俊之師(兵庫県たつの市・淨蓮寺)。この法要期間中は、仏教婦人会連盟、仏教壮大年会連盟、門徒総代会、寺族女性会の総会や研修が開催され、各地から多くの僧侶・寺族・門信徒の皆さまが参集し、にぎやかに勤められます。

## 日高別院の催し

### ■常例法座

4月20日、常例法座が開かれます。午後1時30分から

本堂で正信念仏偈(草譜)をお勤め、引き続き、午後3時まで玉井一乗師(奈良県北葛城郡・宝林寺)の法話を聴聞する。

### ■降誕会・花まつり・湯川忌法要

5月12日、午後1時から

本堂で菅原吉人口高別院副輪番による法話を聴聞し、御坊組内僧侶と園児らが、らいはいのうたをお勤め。その後、御坊幼稚園卒園児(小学校1年生)のマーチングドリルを先頭に、同幼稚園園児らが、象に乗った花

御堂を引きながら町内を行進する。

### ■総永代経

6月20日、午後1時30分から本堂で仏説阿弥陀経をお勤めし、引き続き3時ま

で、西郷教信師(滋賀県彦根市・龍泉寺)の法話を聴聞する。

### ■御坊100

(本願寺日高別院 御坊市 御坊100 電話0738-122-0510)

## 教区内各組の催し

### 日高組

4月13日 第17期門徒推進員養成連続研修会②(教事寺)  
4月20日 総代会総会研修会(長覚寺)

4月1日 第17期門徒推進員養成連続研修会③(淨明寺)  
6月15日 第1回組内会(未定)

### 栗本直紀(和歌山西組法事寺)

### 紀南組

4月13日 組会(勝徳寺)  
4月14日 第49回紀南組仏教婦人会総会(勝専寺)  
6月中旬 第32回紀南組門徒総会(未定)

4月13日 組会(勝徳寺)  
4月14日 第49回紀南組仏教婦人会総会(勝専寺)  
6月中旬 第32回紀南組門徒総会(未定)

### 得度

栗本直紀(和歌山西組法事寺)

### 敬弔

### 御坊組

4月6日 御坊組組会(日高別院)

5月未定 組門徒総代会総会(日高別院)  
5月未定 組仏教婦人会総会(日高別院)

6月末 組仏教壮大年会総会(日高別院)

### 岩橋英子(紀南組覺照寺坊守)

4月15日 荻野良江(日高組淨明寺前坊守)2月22日 中西美代(加茂組遍照寺前坊守)2月25日

16日に常例法座を開いています。布教使は4月15日、玉

(日高郡印南町・善福寺)。  
6月15日、西郷教信師(滋賀県彦根市・龍泉寺)。毎座、午後1時30分からお勤め、引き続き3時30分まで法話を聴聞する。

### 常例法座

この意を表します。

## 鷺森別院の催し

### ■宗祖降誕会・初参式

5月18日、宗祖親鸞聖人

のお誕生をお祝いする降誕会を午後1時30分から勤修。教区内僧侶が出勤し、正信念仮作法第2種をお勤め。

その後、幡多哲也師(兵庫

### ■總永代經

この日は午前11時から本堂で初参式(赤ちゃんやお子さんの初参り)が行われる。詳細は後日、各寺院に送付される。

### ■常例法座

から本堂で仏説阿弥陀経をお勤め。引き続き、午後3時まで法話を聴聞する。

16日に常例法座を開いています。布教使は4月15日、玉

### ■常例法座

鷺森別院では毎月15日、玉

井一乗師(奈良県北葛城郡・

宝林寺)、16日、藤俊乗師

3-422-4677)

# つれもて 聴こいら

わわせていたぐることがで  
きます。例えば、お仏像は  
耳が大きく、目が細いとい  
う特徴があります。

耳が大きいのは、一人ひ  
とりの声にならない苦しみ  
や悲しみを決して聞き漏ら  
さない、というお心が示さ

寄ってきます。  
しかし大人になるにつれ  
て、声にできない苦しみや  
悲しみに出遇うことがあります。  
そのようなどきでも  
「私が聞いているぞ、全て  
わかっているぞ。安心しろ  
よ」と阿弥陀さまが一つも

ことが大切だ。どんなとき  
も決して一人にさせない  
ぞ」とのお心が、この細い  
目によって示されています。  
では、このような阿弥陀  
さまのお姿に対して、私た  
ちの姿はどうでしょうか。

「目で見ることができな  
いから、それはたらきが認  
められない」というのは浅  
はかなのかもしれません。  
風は目では見えませんが、  
直接絵に描くことはできま  
せんが、散っていく木の葉  
や揺れる稻穂を描くことで、  
風をこの目で見ることができます。

「煩惱」まなざしへられて  
「攝取」の光明みざされども  
大悲ものうきことなくて  
つねにわが身をとらすなり  
(註釈版聖典5955p)

と、親鸞聖人は「高僧和  
讃」に、阿弥陀さまのお慈  
悲に遇うことができた喜び  
ひを詠されました。

私たちは、さまざまに煩  
惱によつてこの眼がささえぎ  
られて、私を摑め取つてく  
ださつている阿弥陀さまの  
お光を見るることはできませ  
ん。しかし、阿弥陀さまの  
お慈悲は、決して休むこと  
なく、常に私の身を照らし  
てくださっています。

じのご和讃で示されてい  
る「わが身」とは、親鸞聖  
人自身のことであり、ま

鶯地清登  
おお ち きよ と



## 声なき苦しみもお見通し

ぐだきつていてるのがお仏像  
です。そのお姿を通して阿  
弥陀さまのおはだきを味  
りが気付いて心配して駆け  
いるのです。

まだ、可愛い赤ちゃんの  
笑顔を見るところと目を  
細めるように、阿弥陀さま  
の目も細く示されています。  
阿弥陀さまは私たち一人  
ひとりのことを、我が子の  
ように思つてくださつてい  
ます。「いつでもあなたの

き、決して放つておくこと  
はできないと立ち上がりつ  
て。あなたを放つておけ  
くださいたのが阿弥陀さま  
です。あなたを放つておけ  
ない、決して一人にさせな  
い、と今までに南無阿弥陀  
仏となつて到り届いてくだ  
さいているのです。

「目で見ることができな  
いから、それはたらきが認  
められない」というのは浅  
はかなのかもしれません。  
風は目では見えませんが、  
直接絵に描くことはできま  
せんが、散っていく木の葉  
や揺れる稻穂を描くことで、  
風をこの目で見ることができます。

「風が稻穂を揺らすように、  
阿弥陀さまが私のこの口を  
南無阿弥陀仏と揺らしてく  
ださつているのです。

今、阿弥陀さまのお慈悲  
のなかに生かされています。  
これからも、共にお念仏の  
道を大切に歩ませていただき  
ましよう。

（東大阪市寿町・本照寺）  
（1月16日の鷺森別院常例  
法座の法話から）